

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900326		
法人名	医療法人 村山内科		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	徳島県三好市池田町サラダ1792番地1		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関に併設している為、24時間安心して生活ができ、医療・介護・福祉が提供できる事で、終末期においても最期までその人らしく意思を尊重して看取りができます。 また中心街の中にある為、地域との交流も図りやすい事です</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、多職種連携に取り組んでおり、介護計画書の作成には、医師や看護師、リハビリテーションの担当職員、栄養士、歯科衛生士等が担当者会議に出席し、本人や家族の望む暮らし方に関する具体的な支援の方法について話し合っている。必要に応じて、利用者や家族とともに重度化や終末期のあり方について話し合い、意向を再確認するなどして、本人の思いを尊重した支援に取り組んでいる。職員は、利用者にとりげなく寄り添い、リビングで話をしたり、レクリエーションを楽しんだりすることができるよう支援している。また、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。近隣に協力医療機関があり、24時間の医療対応が可能な体制を構築しており、利用者や家族の安心に繋がっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体ミーティングや申し送りで唱和し、理解して 実践に取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。職員は理念を支援の原点として捉えており、機会あるごとに理念について話し合っている。事業所では、利用者一人ひとりの暮らしを支援するために、年度目標を掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが地域の行事を通して入居者様と一緒に交流している	月1回、利用者と職員で、商店街で開催される“よろず市”に出かけている。また、地域のお祭りに参加している。事業所では、地域のボランティアを受け入れ、利用者や職員と顔馴染みになっており、相互に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等に参加して頂き、地域の人々へ認知症についての理解や情報を共有している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、推進会議を行い、情報交換や意見交換を行う事でサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族や地域住民、警察署員、市担当者等の出席を得ている。事業所のヒヤリハット事例なども報告し、助言やアドバイスを出してもらっている。出席者から地域の行事や情報も得る機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議等の参加時に、市町村職員にホームの状況報告や情報交換を行ったり、在宅ケアを考える会で実情報告や情報交換を行っている	管理者や職員は、市担当者に各種関係制度や介護計画について相談するなどして助言を得ており、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、部会時に身体拘束について具体的な内容について検討できる体制をとっている	月1回、職員間で日頃のケアについて振り返る機会を設けており、身体拘束をしないケアのあり方について話しあったり、自らの支援を振り返ったりしている。やむを得ず夜間にベッド柵を使用する場合などには、家族に説明し同意を得るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部会やミーティング時には声掛けや言葉使い等について話し合い、検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の情報誌を見たりして掲載されている情報等をスタッフへ伝えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容についてゆっくり読んで理解して頂き、疑問がある時はその都度尋ねてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱へ意見や苦情などを自由に入れてもらったり、職員が直接意見を聞いた場合には職員間で話し合い、まとめた意見を家族に伝えて運営に反映するようにしている	日頃から、職員は、利用者や家族の意見や希望を聞くようにしている。出された意見や希望について職員間で話し合っている。利用者や家族に解決策や話し合った内容を伝えている。家族の来訪時には、生活の様子や暮らしぶりを伝え、意向等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は運営会議や業務会議などで提案し、話し合ってもらっている	事業所では、職員がケアに関する提案や意見を表出することのできる機会を設けている。年2回、リーダーとの個人面接の機会があり、職員の提案や意見を運営面に活かす仕組みとなっている。職員は、レクリエーションなどの自分の得意分野を活かしつつ、ケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回面接を行い、職員の個々の評価や意見、提案等の話ができるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内、院外研修等に参加し、部会で内容等を報告する場を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他同業者の職員との交流は少ないので関係づくりはまだ十分とは言えない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れるのに時間がかかるため利用者さんとゆっくり話をして不安な事などを聞いたりして安心できる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面会や連絡時に困っている事がないかを聞き、またケアプランの説明時等にも意見や要望などを聞き、ケアプランに反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のニーズ表を作成し、優先的に必要なニーズを話し合いながら支援を進められるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で信頼関係が築けるようにコミュニケーションを取り関わっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された時には利用者と一緒にゆっくり過ごして頂けるよう家族とのコミュニケーションを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人などの来訪時には居室・リビングでゆっくりと過ごしていただけるように支援している	事業所では、利用者の友人や知人の来訪を快く受け入れており、ゆっくりと過ごすことができるよう配慮している。利用者や家族と話し合い、一人ひとりの馴染みの人や場所等、関係の継続性に留意した支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が話しやすい環境を作り、お互いに声をかけたり、励ましたりして交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話などをして家族との関わりを大切にしている。家族さんからも気軽に声をかけてもらっている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でスタッフとのコミュニケーションを通して本人の意向や要望、不安などを聞くようにしている	職員は、日頃から利用者とゆったりと関わる時間を設け、一人ひとりの意向の把握に努めている。把握した利用者の意向は、家族や職員間で共有し、必要な支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から聞いた情報はスタッフと共有し、理解するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中はできるだけダイニングで過ごして頂き、レクリエーションや話をしたりして活動するように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に多くのスタッフが参加し、変化があった場合はその都度報告している	日頃の利用者との関わりを通じて、本人や家族の意向を確認するようにしている。利用者や家族の意向等を尊重したうえで、介護計画を作成している。医療機関等の関係者からも意見を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はわかりやすく記録できるようにしている。申し送り時にケアの方法などの話をして見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事やボランティアの来訪時にはデイサービスに行き、他利用者さんとも交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街で行われるイベントなどに出かけたりして近隣住民と気軽に話ができるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や歯科からの診療が柔軟に出来るような体制で早期治療が受けられるようにしている	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関による訪問診療もある。専門科の受診は、家族の協力を得るなどして支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換や処置の実施、継続がきちんと行えるようにスタッフへ伝達し、症状の早期治癒を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他院への入退院時には情報提供を行い、家族とも情報を取り合い、入院先で安心して治療ができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前指示書の内容を説明し、最期まで利用者と家族の意見を尊重するようにしている	契約時の段階で、重度化や終末期に関する事業所の対応方針を利用者や家族に説明し、事前指示書に基づいて項目ごとの意向を確認している。医療関係者とも連携しチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急に対応できるように日頃より研修などをして実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施時に夜間の緊急連絡網の整備と避難場所、誘導方法などを確認している	年2回、事業所の避難訓練を実施している。事業所では、円滑な避難の実現に向けて、居室入口に利用者の写真と移動方法を掲示しているが、本人が避難行動に理解を示すための機会を設けたり、平時の運営推進会議等の機会に出席者との協議を十分に重ねたりしているとははいえない。なお、備蓄は法人全体で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを傷つけないような声掛けやコミュニケーションができるように心がけている	職員は、利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保に係る具体的な事例や内容について話し合う機会を設けている。職員は、日頃の利用者との関わりの中で、本人の嫌がる接し方をしないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をよく聞き、気持ちや考えを理解して自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に関わる時間を作り、希望に添えるように努力しているが、個々に聞けていない事が多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院に出かけたり、本人の好みにあった身だしなみをして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態も違い、介助も必要とされる方もいるので個々に好みの物を提供することは難しい。また、重度化のため、準備や片付けを一緒にすることは難しい	事業所では、朝食を作り、昼食と夕食は盛り付けを行うようにしている。利用者一人ひとりの心身状況に応じてミキサー食なども取り入れた食事形態としている。職員は利用者の好みを聞くようにしている。また、誕生会のケーキづくりや干し柿づくりなどもともに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、水分がきちんと取れるようにお茶以外にも提供するようにしている。食べられないときは声掛けしたり介助したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底している。また定期的に歯科衛生士の指導や情報も受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導をし、トイレでの排泄を行っている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。日中は、トイレでの排泄の自立を支援している。夜間には、ポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、自然排便を促すようにトイレに座ってもらっている。また水分も多めに摂取してもらうようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴実施をしている。拒否がある場合は足浴や更衣をするようにしている	事業所は、利用者の希望にそった入浴を支援している。入浴を拒む方には、声かけのタイミングを変えたり、足浴を取り入れたりして、入浴を楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の寝具類の交換や環境を整え、安心して休めるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬の管理をしているが、スタッフ間でも投薬内容や副作用について理解し、服薬時に誤薬がないように最後まで見守りを行うようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の好きなことや継続してもらおう。作品作り等は皆さんと一緒にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出することが難しいが、地域の行事などにはできれば参加するようにしている	事業所では、利用者の希望や意向に応じて、外出を支援している。外出が困難な方も事業所のベランダに出たり、花壇を眺め外の空気に触れたりしている。利用者と職員で初詣や季節の花見に出かけるなどして、季節を感じるができるよう支援している。家族の協力を得て外出を楽しんでもらうこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳で金銭管理をしている。利用者さんと一緒に買い物へ行き自分の好きなものを買ってもらい、自分で支払いができる方はして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡したい場合には職員が電話をかけたりご自分で携帯電話で話ができるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や清掃は毎日実施している。また季節の花などを飾ったりして季節を感じてもらおうようにしている	共用空間は清掃が行き届いており清潔に保っている。利用者と職員とともに掃除をしたり、体操やレクリエーションをしたりして、居心地良く過ごすための工夫を行っている。壁面には、クラフトや利用者紹介の掲示もあり、季節感や生活感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで自由にテレビを見たり話ができるようにしてゆっくりと過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を置き、居心地よく過ごせるようにしている	事業所では、利用者の使い慣れた家具やテレビ、写真等を居室に持ち込んでもらっている。利用者と家族、職員間で話し合い、転倒などの心配のある方には室内の家具の配置や移動導線を工夫するなどして安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に移動ができ、共有スペースでも話したり、好きなことをして過ごせるようにしている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3F 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに事務所とダイニングに掲示し、いつでも確認できるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の把握と市報などで情報を得て地域の方と交流するように努力している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等に参加して頂き、認知症についての情報や報告を行うようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々に少しでも多く参加して頂けるように声掛けし、意見や情報をサービスに生かせるようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議等の参加時に、市町村職員にホームの状況報告や情報交換を行ったり、在宅ケアを考える会で実情報告や情報交換を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、部会時に身体拘束について具体的な内容について検討できる体制をとっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞で掲載された記事など取り上げ、スタッフの意見を聞いたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の情報誌を見たりして掲載されている情報等をスタッフへ伝えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容についてゆっくり読んで理解して頂き、疑問がある時はその都度尋ねてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に声掛けをし、利用者の日々の様子や夜間の状態などを伝えるよう心がけている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は運営会議や業務会議などで提案している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が目標に向かって取り組み、リーダーが達成状況をチェックしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内、院外研修等に参加し、部会で内容等を報告する場を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員との交流は少ないので関係づくりはまだ十分とは言えない		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3F 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と日常生活の中で出来るだけ会話をする時間を持ちながら安心して生活が送れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や連絡事項を伝える時に利用者に対し、困っている事などを聞き、一緒に問題を解決できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のニーズ表を作成し、優先的に必要なニーズを話し合いながら支援を進められるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で信頼関係が築けるようにコミュニケーションを取り関わっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された時には利用者とゆっくり過ごして頂けるよう家族とのコミュニケーションを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人などの来訪時には居室・リビングでゆっくりと過ごしていただけるように支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように声掛けを行い、利用者同士の理解を深めていけるようコミュニケーションを図る		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話などをして家族との関わりを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でスタッフとのコミュニケーションを通して本人の意向や要望、不安などを聞くようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から聞いた情報はスタッフと共有し、理解するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ずつパートナーを決めてその方の状態をきいたり、また気付いた事などを情報交換している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	パートナーがニーズ表を作成し、カンファレンス実施時にケアの統一や実践及び評価ができるように職員間で情報を交換している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタル表の記入や個人記録の中に気づきや変化の記入を行い、ケアの質を高めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事など地域の方と関われる時には積極的に参加して頂くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の担当警察官に運営推進会議に参加して頂き、助言や社会おの情報、地域の実情や事件など報告してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を定期的に行い、状態の悪い方は往診の依頼をするようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	チームで関わりながら異常の早期発見に努め、早急に受診できるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他院への入退院時には情報提供を行い、家族とも情報を取り合い、入院先で安心して治療ができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前指示書の内容を説明し、最期まで利用者と家族の意見を尊重するようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急に対応できるように日頃より研修などをして実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施時に夜間の緊急連絡網の整備と避難場所、誘導方法などを確認している		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム愛 3F	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを傷つけないような声掛けやコミュニケーションができるように心がけている					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をよく聞き、気持ちや考えを理解して自己決定できるように支援している					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務が主体になってしまい、個々の希望を聞けていないことが多い					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に身だしなみやおしゃれに気を使っているが、自分でできない方は職員が手伝っている					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けはほとんど職員がしているが、コップなどは自分で片付けてくれる人もいる。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、水分がきちんと取れるようにお茶以外にも提供するようにしている。食べられないときは声掛けしたり介助したりしている					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、磨き残しがないか職員が確認するようにしている					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、早めにトイレ誘導を行うようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、自然排便を促すようにトイレに座ってもらっている。また水分も多めに摂取してもらうようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴実施をしている。拒否がある場合は足浴や更衣をするようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して頂き、夜間に良眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬内容や副作用について理解し、誤薬のないようにスタッフ間で周知することと、最後まできちんと服薬できたかを確認するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作りや学習療法実施などを行っている。またおやつも楽しみにされている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や買い物など本人の希望に応じて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホーム愛 3F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳を作成し、本人が欲しいものを一緒に買いに行ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡したい場合には職員が電話をかけたりご自分で携帯電話で話ができるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気節の花を生けたりして季節を感じる工夫をしている。また、空気の入替えをこまめにしたり、光が強い時にはブラインドやカーテンなどで調節している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで自由にテレビを見たり話ができるようにゆっくりと過ごせるようにしている。居室内もゆったりと過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は馴染みの物を本人や家族が自由に使用できる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体力や筋力の低下を防ぐため歩行練習や体操をしている方もいる		